

# 総合診療科 概要

モットー  
「夢と情熱」

総合診療医であれば、以下の原則を満たしているはずです。

## 1. 患者さんのニーズに応えられること

総合診療医は、多くの患者さんのニーズに応えられるべきでしょう。年齢、性別、そして臓器にかかわらず目の前の患者さんをケアできます。したがってさまざまな診療科にまたがる多くの知識や技能、そしてそれらを統合する卓越した問題解決能力を要求されるかもしれません。精神の不調にも対処できるべきでしょう。さらには健康な人、というより健康だと思っている人々も、健康増進・予防活動によって、ケアの対象となると考えます。逆にあまり健康上の問題はないのですが医療機関を訪れるような人にも対応することもあるでしょう。また、本当は総合診療医のところに来院するまったく違った原因があるけれど、ある病気と思って医療機関を訪れている患者さんもいるかもしれません。その原因に家族や患者さんの生い立ち、社会的・経済的状況といった患者さんの背景が関与していることもあるかもしれません。これらの患者さんにも対処できるような医師です。

## 2. いろいろな人とよい連携が取れること

患者さんを自分の医療機関に過剰に抱え込んでいません。自分の診療の範囲を超えた診断や治療を必要としている患者さんは、専門診療科にコンサルトすべきでしょう。また、コンサルトすべき診療科すらわからなかったら、最も可能性の高い疾患を診てくれる診療科にコンサルトしてくれるでしょう。患者さんは、総合診療医がすべての疾患を診てくれることを必ずしも期待していません。患者さんによっては、適宜、専門診療科にコンサルトしてくれることを期待してことも少なくないです。この連携のために総合診療医は、病院や診療所の専門診療科と深い信頼関係が必要でしょう。

この他にもたくさんの連携があります。在宅診療などでは、患者さんを中心としてケア・マネージャー、ホームヘルパー、訪問看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ職員、介護関連施設の職員、その他、警察官を含め、いろいろな職種の人々がかかわっています。これらの人々とのよい連携も必要でしょう。病院内ではチーム医療が望まれます。病院では、施設内で多くの人が入り、医師一人で働くことは基本的に不可能です。日本では、家族とのよい連携が必要なこともしばしばあります。患者さんだけが診療に納得していればよいというわけではありません。

## 3. 総合診療医の立ち位置

以上に述べたように、総合診療医は全く異なる原則を持ち、他の診療科医師とは異なるアイデンティティーを備えていると思われます。それゆえに医療における総合診療医の立ち位置も専門診療科のそれとはまったくパラダイムが異なっています。

日本の患者さんはフリーアクセスの恩恵を最大限に生かして、患者さん自身が最適と考える医師を訪れます。しかし、その患者さんの選択は必ずしも正しいとは限りません。総合診療医がいればそれらの多くの疾患に対応できるであろうし、必要があれば専門診療科の医師につなげることができます。そのような医師が近くにいるならばありがたいですね。総合診療医が十分に機能を発揮すれば、不適切な救急外来への受診も必要のない大病院への直接受診も減少するかもしれません。総合診療医がケアしているのならば、入院している患者さんが在宅へスムーズに移行できるかもしれません。このように堅強なプライマリ・ケアは、健全な医療システムにとって必要不可欠といえます。

総合診療医はプライマリ・ケアの現場で活動するので、患者さんの考えや期待など、患者さんの世界に接していることが多いといえます。ただ、それは接しているだけで、聞いてみなければ認知されません。患者さんの考えや期待は診療のコンプライアンスに影響し、それはすなわち治療効果にも影響する可能性があるので無視はできません。患者さんの背景や人となりがわかれば、不要な救急外来受診や防衛的な入院も減るかもしれません。これらの点でも、患者さんと同じ基盤に立って患者さんを診ることができる総合診療医の機能は重要といえます。

現在、地方では医療崩壊がここここで起こり、地域医療をどのように再生させていくか、地方自治体が頭を悩ましています。実は東京も例外ではありません。いや、これから数年後には東京こそが医療の問題が顕在化すると考えられます。総合診療がその際の重要な視点となるのは間違いないでしょう。地域住民のための総合診療の発展が真に期待されます。

現在、日本専門医機構の19番目の基本領域診療科となり、機構は医師の2割が総合診療医になるように増員を図っています。

## 診療について

地域の住民のニーズにこたえられるような医療を行っています。そのために総合診療科では、東京医科歯科大学医学部附属病院の外来や入院診療のみならず、地域の病院や診療所などを包含する「東京医科歯科大学総合診療ネットワーク」を構成し、診療を展開しております。そして医療だけではなく、保健や福祉、さらには地域住民との連携も重視しております。

総合診療ネットワークは、日本を主とした世界中の地域住民が健康で笑顔あふれる生活を送れるように、研究によって効率的な総合診療の在り方を探求し、また、教育・研修によってそのような総合診療を住民に提供できる医師などの医療従事者を育成することが目的となっております。さらに、それらの医療従事者を教育・指導できる人材や総合診療に関わる研究を実施できる人材の養成もおこなっております。

## 教育について

### 1. 卒前医学教育

3年生には医歯学融合教育として、地域における総合診療の重要性を教育しております。また、4年生では、日本の医療の将来を考え、総合診療の果たすべき役割を議論、また総合診療を行う上で必要な様々な総合診療的能力を教育しております。プロジェクトセメスターにおいては、AIを使用した医療面接等に係る研究などを実施しています。臨床実習では総合診療を大学病院、または地域の病院や診療所にて学習できる教育をしております。6年生でさらに総合診療を学内外で深く学ぶ機会を提供しております。

### 2. 初期研修

大学病院の病棟や外来において、総合診療の研修を行っております。総合診療がコンパクトに十分に学べます。総合内科としての研修とオーバーラップしています。様々な教育機会が多い総合診療では満足していただけるでしょう。特に総合診療を行う上で必要な様々な技能や外来での診断方法を学んでもらっております。

### 3. 専門研修

総合診療専門研修（日本専門医機構認定）と総合内科専門研修（日本専門医機構認定）を実施しております。いかなる地域での臨床現場でも対する臨床能力を徹底的に指導しております。内科とのダブルボードができるようになっております。

### 4. スペシャルインタレスト

さらに専門性の高い総合診療（例えば医学教育や感染症学を含む）を学ぶことができます。

### 5. 大学院教育

総合診療医学、地域医療学、医学教育学などに係る様々な研究が実施できるように、講義と個別研究指導などをおこなっております。将来、総合診療分野で教員などとして機能できるように教育を行っております。

### 6. 生涯教育

総合診療セミナーin 御茶ノ水（お茶セミ）などで病院の医師や地域で活動するかかりつけ医の先生方、そして学生などが包括的な医療を学ぶ、さらに同職種・多職種との連携度を高めるための講習などを提供いたします。また、多職種医療介護職種にも、多職種連携活動がより効果的に行えるようにする教育などを実施します。

### 7. 海外との連携

学部教育や大学院教育をさらにグローバル化するために、欧米のみならず、アジア各国の大学と連携をとれる環境を構築しております。そして当教室の活動が世界の総合診療をけん引できるように広い視野で前進しております。

## 研究について

総合診療を実施するうえで必要となる研究を行っております。その総合診療のエビデンスを基に教育や研修活動を行い、また、そのエビデンスで行政や社会に提言しております。医療システムに係る研究、AIを使った医療面接、エコー手技の妥当性・信頼性検証など総合診療の技術的な研究、教育に係る研究など、ニーズに応えるために様々な研究を行っております。